

# AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2010年6月 No.251 定価 150円  
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-3  
 特定非営利活動法人 アムダ：AMDA  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail:member@amda.or.jp  
 編集：AMDA ボランティアセンター  
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

## ハイチ義肢支援プロジェクト始動

AMDA 義肢支援プロジェクト マネージャー 八尾 直毅

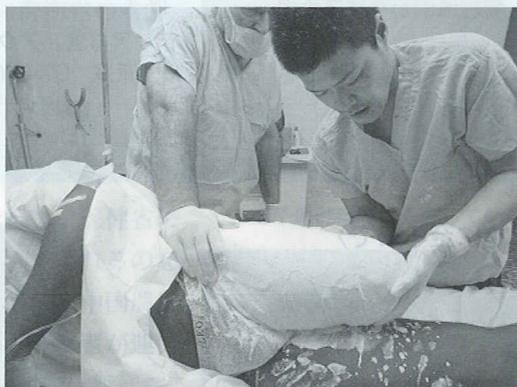
ハイチの地震が発生して早5ヶ月が過ぎようとしています（注：1月12日発生）。死者22万人それ以上とも言われる世界の最貧国といわれる国で起きた大災害は、世界中の人々に大きな衝撃を与えました。地震後世界各国のNGO団体や国連機関が緊急医療援助活動を始めました。我々AMDAも多国籍医師団を7カ国から延35名派遣し活動してきました（5月20日現在）。

今回我々はこの緊急医療支援にあたり、不運にも手足を切断しなければいけないという患者をたくさん見てきました。ハイチ政府の発表ではその数は4000人以上とされています。そこで今回AMDAはハイチ復興のためにも義肢が必要と考え義肢支援活動を発起することになりました。

なぜ義肢支援活動なのか？地震の復興支援といえばインフラ整備や医療支援などがすぐに思いつきます。義足という一人の患者に対し高いコストを必要とする支援活動を行うことは、復興支援活動においてはとても稀な活動でしょう。

今回我々は300人の被災者を目標に義肢支援プロジェクトを立ち上げました。義肢を支給するということは、その人の直接社会復帰への自立を助けることであります。ハイチでは大家族なので一家の大黒柱であるお父さんに、もしくはお母さんに対し義肢を支援できたとすると、1家10人の生活が復興できることになり、それは直接ハイチ復興への礎となると考えました。支援活動においては義肢支援センターを作り、義足を作る部品においては日本中に眠るまだまだ使えるが廃棄処分になるような中古部品をリサイクル活用して、義肢支援活動を行うことを考えています。

5月に入り我々は第一次調査としてハイチに入りました。大統領府が倒壊した首都ポルトープランスでは大統領府付近も含め、ほとんどの瓦礫が撤去され4カ月の期間にかなりの復興を遂げていました。しかしながら空港を降りるや



AMDA 多国籍医師団参加人数：  
 医師 17人・看護師 8人・調整員 9人・  
 装具士 1人 計 35人 6月1日現在

各国 AMDA	医師	看護師	調整員	義肢装具士
日本（岡山本部）	4		8	1
カナダ		5		
コロンビア	3	2		
ペルー			1	
ネパール	2			
ポリビア	5			
インド	3	1		

否や、たくさんの青いテントやその中で勉強する子供たちが目に映り、人々の困窮した姿が確認されました。今回我々は地震直後に緊急医療支援活動を行ったゴナイクに行ってきました。ここは地震の影響はなかった町ですが、多くの患者がここに運ばれてきており、いまでも国連や

各国のNGO団体が支援活動を行っています。外国人は絶対外を出歩かないように、という注意があるのですが、本当に外を歩いている外国人は見かけないほど治安面は依然厳しい状況が続いています。

ゴナイクのセコー病院を訪ねると、被災患者さんは手術を施して大体2、3カ月後には傷が癒えるので、4か月経った今では自分たちの家に帰っており、病院には患者の姿はいませんでした。4000人とも5000人ともいわれる切断者を支援することは、まずは患者を見つけることから始まりました。そして今回我々はゴナイク・セコー病院で一人の被災者と出会いました。左足は大腿部から切断され、右足は足首の下から切断という重度の被災者でした。こちらの計画を伝えると是非とも義足を作りたい、という希望でしたのでその病院で採寸を行いました。彼はまだ32歳ですが子供3人を持つ一家の大黒柱で、家族の

ためにも早く歩けるようになりたいと心から切に願っています。この活動が軌道になるまではまだまだ時間が必要ですが、ともあれ義肢支援活動はこの一家の大黒柱を支援するところから出発することになりました。

これからどんな困難があるかわかりませんが一人でも多くの被災者の支援を行えるよう活動をすすめていきたいと思っております。皆様からの温かいご協力をぜひともよろしくお願いいたします。



視察先の施設で



5月のポルトープランス

# チリ地震被災者に対する緊急支援活動

地震発生 2月27日午前3時34分（日本時間午後3時34分）、マグニチュード（M）8.8。  
第7州を中心に沿岸部で地震津波の深刻な被害が発生。被災者は200万人以上に上るといわれる。

〈派遣者〉

## 第一次チーム：実態調査からプロジェクト立ち上げまで

3月2日成田発、3日ボリビアサンタクルス着、3人のチームとして合流。5日（現地時間）チリ・サンティアゴ空港到着。  
津曲 兼司 医師（医）アスカ会所属 AMDA 多国籍医師団上級顧問 派遣期間2日～13日（日本発着）（チリ国内滞在期間 5日～11日）  
森田佳奈子 調整員 元青年海外協力隊員 村落開発普及員 ドミニカ共和国派遣 08年1月～10年1月（チリ国内滞在期間 5日～28日）  
パトリシカ 心理カウンセラー AMDA ボリビア支部 （チリ国内滞在期間 5日～11日）

## 第二次チーム：プロジェクト実施準備から終了まで

成田から3月14日発、15日早朝（現地時間）チリ・サンティアゴ着。アウグスト調整員も15日着、サンチアゴで合流。  
石岡 未和 看護師 元青年海外協力隊員 ドミニカ共和国派遣 07年6月～09年6月（チリ国内滞在期間 15日～31日）  
大和 玲子 看護師 元青年海外協力隊員 チリ共和国派遣 08年1月～10年1月（チリ国内滞在期間 15日～4月5日）  
ペンダガスト アウグスト 調整員 AMDA ペルー支部 （チリ国内滞在期間 15日～26日）

## 〈乳幼児支援プロジェクト実施に至るまで〉

第一次チームは、マウレ州（第7州）の州都タルカのチリ軍敷地内に設置された地震対策緊急本部、軍医療担当部門、コンスティツシオン病院、地元NGO、ビオビオ州（第8州）のコンセプション州立病院（周辺の5県20万人を対象とする総合専門病院）などを訪問し調査活動を行ない、マウレ州、ビオビオ州にまたがる沿岸部地震津波被災地の視察をした。その結果、着の身着のまま逃げた被災者の中で、災害弱者である乳幼児への支援が行われていないことが浮かび上がり、その健康を守る活動の必要性に着目し、乳幼児を抱える家庭への物資配給と乳幼児健診を実施することを決定した。



地震と津波に見舞われた沿岸部被災地

## 〈乳幼児支援プロジェクト〉

実施地域：チリ国第7州：

マウレ州の沿岸部 コンスティツシオン（コンセプションの北約180km）

乳幼児検診実施チーム構成：計67名

AMDA 看護師2名（大和、石岡）

調整員2名（森田 アウグスト）

CESFAM アルトセロ診療所

（CESFAM：Centro de Salud Familiar Alto Cerro alto）



被災漁村地域のみなさんと（左から大和看護師、石岡看護師）

所長1名、医師2名（小児科医、救急医 各1名）、看護師5名、看護助手5名、栄養士2名、ソーシャルワーカー2名、運転手2名、事務2名など

サンチアゴから派遣のチリ緊急医療チーム 5名

チリ政府軍ラ・セレーナ基地特別部隊 15名

後方支援：チリ政府地震対策緊急本部、チリ軍タルカ基地、保健省マウレ州事務所、ミドリ十字薬局、タルカ住民支援グループ、他

実施内容：実施期間：3月15日から31日まで

3月23日～25日のプロジェクト実施日へ向け入念に事前準備を重ねた。実施機関であるCESFAMアルトセロ診療所の小児専門看護師が抽出した、地震の影響で健康・栄養状態悪化が懸念される乳幼児100名のリストを元に、診療所内・外の2チームに分かれて乳幼児健康診断と物資配給を行った。診療所内では来院した乳幼児に対して、診療所外では被災キャンプ地や村落部貧困地域など特定地域を巡回訪問して実施を行った。内容は、チリ厚生省の乳幼児定期健診プログラムに基づき、乳幼児の体重・身長を測定し、成長曲線で栄養・発育状況を観察、その後、保健・衛生・栄養・育児指導を行い、物資を配給する流れ。この際、AMDA独自アンケート調査とチリ厚生省の母子健康手帳のデータも活用した。

# 中国青海省地震被災者に対する緊急支援活動

中国青海省のチベット族自治州玉樹県で4月14日大規模地震が発生。犠牲者2000人を超える事態となった。15日に岡山を出発したAMDA本部ヴィーラバグ調整員は、16日関西空港を立ち、夕刻予定どおりに成都に到着した。同調整員は、2008年四川省地震緊急救援でAMDAチームが入った四川省中医薬科学院を尋ねた後、被災地から負傷者が搬送されている成都市内の病院を視察。18日に青海省の省都、西寧市に入った。

地元ではその時点で負傷者のうち1500人ほどが医療施設に搬送されており、病院では多くのチベット人が通訳ボランティアとして被災患者と病院スタッフの間で働いている姿が見られた。

同調整員は西寧市内で被災者ための医薬品の調達を行い、保健省に託した。そしてこの医薬品が同日玉樹県の軍病院に向け運ばれるのを見送った。この医薬品贈呈については同市内のホテルにて、中国農工民主党と合同寄贈式が執り行われた。その後、被災地から患者が運ばれている西寧市の母子保健病院を訪ね、幼い患者と家族等を見舞った。

今回は、医薬品寄贈と青海省西寧市内等の医療施設視察という間接的医療支援活動としての緊急活動を終了することとし、同調整員は20日夜関西空港に帰国した。

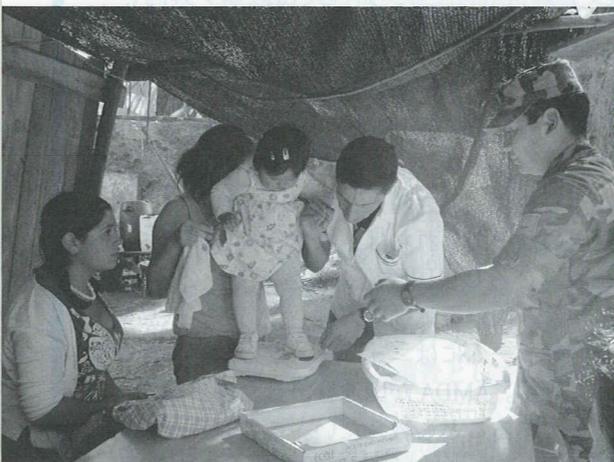


母子保健病院に入院しているチベット族少年を見舞う



被災地玉樹県への医薬品贈呈式

今後の予定としては、11月に再び被災者支援を行うべく、再訪の予定を立てています。  
引き続きご支援をよろしくお願いします。



配布物資セット

乳児検診

のお面を被り、歌やダンスなどで身体を動かしながら、被災で落ち込む人々に少しでも明るい時間を提供したいという想いも込め、子供から大人まで楽しく学べる内容とした。

配布物資：高栄養粉ミルク（各家庭2缶）、  
配布物資セット 哺乳瓶、おむつ（0～2歳児用各サイズ：各家庭2袋）、ウェットティッシュ、ろうそく、医薬品（抗皮膚炎症軟膏、小児用ビタミンACD混合内服液、小児用鉄分補給内服液）、フリース毛布、手指消毒用アルコールジェル他（注：医師の指示により、ビタミン剤、鉄剤は4カ月から1歳までの乳幼児に適用）  
※その他：小児用アセトアミノフェン内服薬100箱を診療所へ寄贈

幸い、栄養状態に極度の影響をきたしている乳幼児、医師の診察・処置が必要になる乳幼児は発見されなかった。

しかし、被災キャンプ地や街の中心から離れた村落部貧困地域へ行けばいくほど、居住環境が悪くなっていったという報告を受けると同時に、震災後4週間となり、感染症が懸念される時期ということも重なり、アフターフォローとして集団保健指導を実施した。23日に、実際訪問して衛生環境が悪かったと報告を受けた場所を選び、25日に診療所の看護師、首都の緊急医療チームと共に集団保健指導を3か所で計80名に対して実施した。手洗い実施指導と同時にビデオ教材を使い、手形

AMDAでは、震災から半年後の9月に、活動した被災地を再訪して、被災者が必要とする支援を再度実施します。現地事情に精通する今回協力くださった現地スタッフとともにいきます。この事前調査として、緊急救援時に派遣した大和看護師が6月にチリ入りしています。引き続き御協力をよろしくお願いします。

# 「市民参加型人道支援外交」の提唱

AMDA グループ 代表 菅波 茂



2010年1月12日に発生したハイチ大地震は22万人の死者、220万人の被災者をだした。AMDAは日本、カナダ、ペルー、コロンビア、ボリビア、ネパールそしてインドの7ヶ国から合計延35名の整形外科医や外科医を主体とした多国籍医師団を2ヶ月間にわたり派遣した。ハイチ全体で4千人の被災者が骨折などの原因で四肢を切断している。ハイチ復興計画で、国連が各国に要請している支援項目に義肢がある。5月よりAMDAはドミニカ共和国内に義肢支援センターを設立するプログラムを開始した。8月には、「スポーツとは求心力」の定義のもとに、ハイチ復興支援スポーツ親善交流を予定している。

今回のハイチ地震被災者救援活動を従来の災害救援と比較して下記の3点に総括できる。

- 1) 国の統治機構の崩壊による最悪の治安状況。アリストテッド元大統領による市民蜂起を期待した多量の武器の配布。その回収を目的とした国連ハイチ安定化ミッションの甚大な被害。刑務所の崩壊による武器を持った4千名の囚人の脱走等。
- 2) 2004年12月のスマトラ沖地震・津波に匹敵するかそれ以上といわれる犠牲者数。瓦礫から死臭が漂う首都。重機なくして遺体の回収は不可能。
- 3) 国の統治機構崩壊による自立復興不可能。最貧国に加えて社会インフラの崩壊。金融恐慌により国際社会には支援の余裕なし。市民には夜露をしのぐテントもなし。

AMDAのハイチ地震被災者救援活動構想は下記の3点に要約できる。

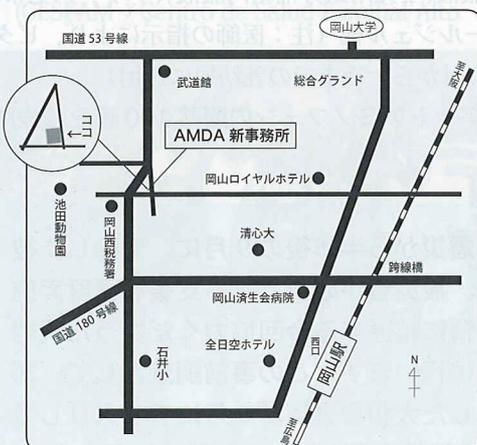
- 1) AMDA多国籍医師団の派遣。中南米に加えてアジアからの医師団の参加。
- 2) Overseas Japaneseとの連携。沖縄県と日系移民。青年海外協力隊OB等。
- 3) ハイチ復興支援スポーツ親善交流と義肢支援センター。近隣県の少年野球チームとドミニカ共和国およびハイチの青少年との野球やサッカーの交流親善試合。義肢を必要とするハイチ人被災者2百名とドミニカ共和国人1百名の支援。

AMDAは「市民参加型人道支援外交」を提唱したい。「市民が日常生活で共有している方法論で、見放され

たくない状況にいる人たちを支援することにより、相互信頼を醸成して世界平和に貢献する」ことである。市民にも直接的な人道支援ができる。市民にも外交ができる。NGOにとっては新しい人道支援パラダイム創出である。

- 1) 歴史的対立の緩和や解消。ドミニカ共和国とハイチは紛争を繰り返した歴史がある。国境に緩衝地域を設定する目的で日系移民が不毛地域を農業に適していると偽りのもとに送りこまれた悲劇がある。ドミニカ日系移民協会の訴えに、日本政府が2006年に裁判で敗けている。今回、甚大な被害を被ったハイチの人を助けようとドミニカ共和国の人たちが支援の手を差しのべている。歴史的対立緩和の最大の機会である。
- 2) 人道支援パラダイムの大転換。市民と市民が直接に参加することにより相互理解と相互信頼を醸成する。国やNGOのような専門団体が人道支援を売りにする時代の終末。
- 3) 最良の「安全保障ソフトプログラム」。BBCの調査によると、世界で最も嫌われてない国は日本である。しかし、最も好かれている国ではない。最も嫌われてなく、最も好かれている国を実現することが最良のソフトとしての安全保障である。

ハイチ復興支援スポーツ親善交流構想は、2年に1度10年間にわたって実施する構想である。10年たてば青少年も社会人となる。社会人となれば家族を持つ。家族ぐるみで歴史的対立を乗り越え、良き隣人となればうれしい。加えて、日本を好きになってくれれば、なおうれしい。ちなみに、広島県には「ひろしま国際施策推進プラン2010」があり、岡山県には「国際貢献推進条例」がある。広島県と岡山県の少年野球チームにはニューヨークの国連本部を案内する試みも計画中。AMDAが国連経済社会理事会総合協議資格認定団体であることも教えたい。この試みが成功すれば、「市民参加型人道支援外交」を推進する「AMDAスポーツ夢機構」へと発展させることができれば望外の喜びである。



6月から  
AMDA  
新事務所  
に移転  
しました

F T 岡 元  
A E L 山 7  
X L 市 0  
0 0 北 0  
8 8 区 1  
6 6 伊 0  
2 2 福 0  
1 1 町 1  
5 5 3 3  
2 2 3 3  
5 5 1 1  
2 2 3 1  
1 1 1 1  
7 7 7 7  
1 1 0 0  
7 7 0 0

## \* AMDA 会員募集

	年会費	※医師・一般・学生・法人会員には、活動報告誌『AMDAジャーナル』を年4回、『AMDAダイジェスト』を年2回、賛助会員には、『AMDAダイジェスト』を年2回送付しています。
医師会員	15,000円	
一般会員	10,000円	
学生会員	7,500円	
法人会員	30,000円	
賛助会員	2,000円	

\*入会希望の方は、同封の郵便振り込み用紙の裏面をご覧ください、必要事項を記入の上、ご入会の手続きをお取りください。